

# 北十間川水辺活性化フォーラム 実施報告書

墨田区 都市整備部 都市整備課

平成28年3月31日

## 1 実施概要

### (1) 背景・目的

墨田区の水辺を活用したまちづくりと今後のあり方について、水辺の賑わい創出、舟運の活用、地域と水辺の関わり、水辺の景観づくりなど、幅広い見地から意見交換を行い、フォーラム参加者全体の水辺への想いを醸成することを目的とする。

### (2) 開催日時・場所

平成28年2月14日(日) すみだりバーサイドホール

10:00~12:00 水辺活性化フォーラム

12:40~13:40 隅田川体験乗船

体験乗船は、天候不良により中止

### (3) プログラム (敬称略)

10:05~10:25 基調講演

- ・芝浦工業大学工学部建築学科教授 志村 秀明

10:25~11:00 意見発表

- ・帝京大学経済学部観光経営学科教授 大下 茂
- ・一般社団法人墨田区観光協会理事長 阿部 貴明
- ・東武鉄道株式会社経営企画部部長 島田 憲治
- ・東京都建設局河川部長 三浦 隆
- ・墨田区長 山本 亨

11:10~12:00 意見交換

- ・コーディネーター: 志村 秀明
- ・パネリスト: 意見発表者5名

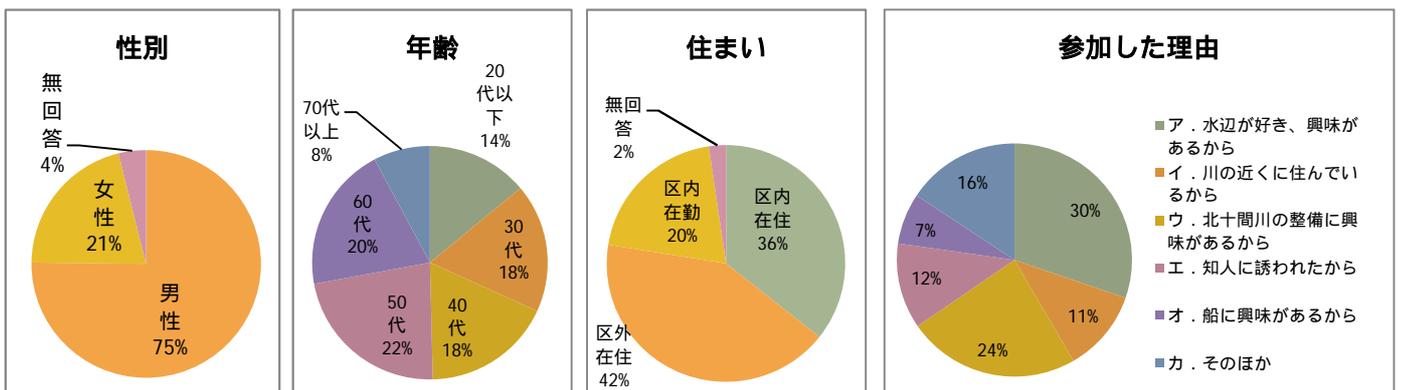


開場の様子

### (4) 参加者 総勢218名

### (5) 参加者の属性

アンケート設問(1)回答数129による



## 2 基調講演

### (1) テーマ / 講演者

水辺と連携したまちづくりの方法 ~まちづくり協議会方式による運河・水辺活用~

運河ルネサンス豊洲地区、他の運河ルネサンス推進地区 / 芝浦工業大学 志村 秀明 氏

### (2) 概要

豊洲地区は、中央に大きな工場があり街が分断されていたこともあり、昔は街にまとまった団体は無かった。

しかし、街全体の再開発や水辺の遊歩道整備により運河・水辺活用の機運が高まり、2009年地元11団体で「豊洲地区運河ルネサンス協議会」が設立された。その後、東京都が進める「運河ルネサンス推進地区」にも指定され、それまで協議会が強く要望していた船着場が整備されたことで、活動が本格化した。江東区、協議会、芝浦工業大学の3者は協定を締結し、船着場は協議会が管理しており、以降、船着場を使った協議会主体の船カフェなどのイベントが社会実験として継続している。運河ルネサンス協議会では、当初からオール豊洲の団体にしようという狙いがあったが、2016年1月現在、協議会加盟団体は20団体まで増え、地域に根ざした水辺の賑わい、まちづくりへと展開している。まちづくり協議会方式を進めていく意義としては、住民参画、住民の意識高揚を支える仕組み、水辺とつながるまちを元気にする姿勢から生まれていくことにある。



### 3 意見発表 概要

#### (1) 墨田区観光の力と、その展開術 / 帝京大学 大下 茂 氏



墨田区観光振興プランの戦略の一つの「水都すみだの再生」は、舟運観光、水辺を核とした賑わいづくりにある。舟運は1つのツールであり、いかに水辺とまちとの接点に賑わいを生み出すかが問われる。かつて江戸時代の交通は舟運が中心で、船着場周辺が賑わいの場だった。舟が行き来していることがプロモーションの最大の効果になり、船を係留しておくことだけでも何か期待感を持たせる風景になる。

向島、東京スカイツリー、両国を3つの戦略拠点とし、観光振興の推進、広域連携をしていく。すみだの観光を支える仕組みとして、墨田区観光協会を中心とする観光に関連する様々な団体を、区、都、国が下支えをする「すみだモデル」を構築している。

#### (2) 水辺活用で憧れのまちづくり / 墨田区観光協会 阿部 貴明 氏

水都すみだの再生とは、何か新しいことをやってお客さまを呼び込むのではなく、自分たちのまちはこうだったよね、という思いを掘り起こすことである。いくらお客さまが増えて賑わっても、住んでいる人が住みにくくなるとは意味がない。また、墨田区だけで完結しない、広域の視野を持つことも重要である。お客さまが喜ぶのは、地域の人たちの日常の様子を見に来ること、それがお客さまの求める非日常体験になる。つまり、いかに、住んでいる人が楽しんでいる様子をお客さまに見せることが出来るかが重要であり、そのためには、地域の皆さんがどんなまちにしたいかを強く思うこと、それが実現できることが一番いいことだと思う。



#### (3) 鉄道とまちづくり ~東京スカイツリーのある下町~ / 東武鉄道 島田 憲治 氏



とうきょうスカイツリー駅周辺は、昔から舟運と鉄道の結節点であり水辺とのつながりがあった。貨物は舟運から鉄道、ドックは貨物ヤードとなり、さらには鉄道の貨物の時代も終わり、そこに現在のスカイツリーが完成した。スカイツリー周辺の水辺もスカイツリーの開発に合わせ新たにリニューアルされ、水辺と非常にマッチした街となっている。スカイツリー開発は、先進と文化・伝統の息づく街、コミュニティのあるまちづくりとしてスタートしたが、今後、さらに広いエリアに広がっていくよう、浅草・スカイツリー・曳舟を結び、コミュニティのあるまちづくりを目指していく。

とうきょうスカイツリー駅周辺は、昔から舟運と鉄道の結節点であり水辺とのつながりがあった。貨物は舟運から鉄道、ドックは貨物ヤードとなり、さらには鉄道の貨物の時代も終わり、そこに現在のスカイツリーが完成した。スカイツリー周辺の水辺もスカイツリーの開発に合わせ新たにリニューアルされ、水辺と非常にマッチした街となっている。スカイツリー開発は、先進と文化・伝統の息づく街、コミュニティのあるまちづくりとしてスタートしたが、今後、さらに広いエリアに広がっていくよう、浅草・スカイツリー・曳舟を結び、コミュニティのあるまちづくりを目指していく。

#### (4) 水辺を活用したにぎわいづくり / 東京都 三浦 隆 氏



これまで隅田川では耐震補強工事や、スーパー堤防整備、江東デルタ地帯では耐震護岸整備や、水位低下によるテラス整備、また防災船着場の一般開放を行ってきた。水辺の賑わいづくりとしては、平成23年度の河川敷地を使うルールの改正(河川敷地占用許可準則)により、オープンカフェ、かわてらすなども行われている。平成26年に策定した「東京都長期ビジョン」では、水辺空間における多彩な賑わ

いの創出を挙げており、隅田川を川沿いの縦の軸、特に築地、佃・越中島、両国、浅草を賑わい誘導エリアとして重点的に施策を展開していく。東京都としても水の都を目指し、舟運の活性化、親しみやすい水辺空間の創出に努めていく。

#### (5) 墨田区の水辺活用の取り組み / 墨田区 山本 亨

墨田区は水辺に恵まれた水都である。隅田川を中心として、墨堤桜まつりや隅田川花火大会など水辺の文化が培われてきた。船着場もあり、観光舟運も行われている。水辺のまちづくりとして、両国、北十間川地区について紹介する。両国については、船着場の周辺に、既に国技館や江戸東京博物館などの観光資源があり、北斎美術館や刀剣美術館などの新たなプロジェクトも進められている。両国船着場はオリンピックに向けて拡張され、川からの玄関口になることで、さらに水辺からのまちづくりも広がっていくと考えられる。北十間川については、川と高架下、隅田公園と広い範囲でまちづくりを考えていくとともに、既存の観光資源も活かしていくことで、浅草からスカイツリーまでの動線として生きてくる。これからのすみだのまちづくりに「川」は重要なキーワードである。住民の皆さんとも一緒になって、川を中心とした夢のある水辺、まちづくりを目指していきたい。



### 4 会場からの質問を交えた意見交換 概要 (パネリスト敬称略)

#### (1) 水辺活用のイメージについて



大下：観光の観点から水辺活用のポイントとしては以下の3点が考えられる。船から見る風景は全く違う「水路」、各区が連携する「広域連携」、陸地と一体的賑わいを創出するための「水辺との接点」。

阿部：5年、10年、30年先に自分たちのまちの水辺の風景がどうなったらいいかをイメージすること。

島田：水辺と鉄道、まちが一体になる、水辺の新しい展開に期待できる。

三浦：皆様に水辺を身近に感じていただき、色々を使ってもらいたい。

山本：地域の皆様と一緒に考えながら、生活しやすい環境、緑、水辺環境が充実したまちづくりを進めていく。

#### (2) まちづくりについて

阿部：地域に川があることを認識しながら、自分たちの生活、イベント、祭事なりと水辺をどう融合していくか。

水辺活用は、そこに住む人たちのためにどんなふうにすることが一番いいかを考えることが重要である。

島田：生活空間であるということの中で、水辺の可能性を皆様と考えていきたい。

山本：川とともに栄えた歴史、水辺がある地形の特性を今一度共有する。まちのいろいろなコンテンツともつなげながら、水辺のイメージをもう一度作り上げていく。

大下：両国地区のまちづくりは、「粹に楽しむ」という大テーマのもと、それぞれの地区にあったやり方で広げていく方法をとった。住民の「その気」、「やる気」、「本気」の3つの気を順に高めていき、「根気」強くやるということがポイントである。



### (3) 地域活性化について

三浦：安全の確保が出来る範囲で色々なアイデアを聞きながら賑わいを作っていく。

大下：墨田の観光スタイルは、地域の暮らしが主役であるべき。水辺とまちの接点である船着場に、賑わいの仕掛けを作れば、陸と川の一体化にもつながる。

阿部：すでに区内に存在する伝統的なもの、ものづくりといった観光資源を、一時的に水辺に集積して、お客さんにお披露目することはどうか。区内の周遊イベントなどの交通手段として、舟運を活用することも考えられる。



### (4) 北十間川の可能性と将来像について



島田：北十間川は浅草、スカイツリーをつなぐうえで重要な位置づけとなる。地域の生活など、色々なものをつなげていきたい。

三浦：水辺に親しむことができ、高架下、隅田公園も一体的に使えるというのは非常に良いまちづくりの種になる。色々なアイデアをいただきながら、生活している方々にとってより良い、地域にふさわしいまちづくりができればよい。

大下：北十間川と両国という集客力のあるコアとなる部分を入口にして、区内のその他の地域に散らすという「集散往来」という考え方がある。その時の移動手段として、舟運と回遊バスを連携させてはどうか。



山本：水辺でくつろいでいる風景、川に親しむ気持ち、船が動いている川のいいイメージを持ちながら、区としてもスピード感を持って取り組む。高架下、隅田公園も有効に使いながら、観光の回遊路として考えていく。

### (5) パネリストから一言ずつ

大下：地域の皆様も、何が出来るんだではなく、何がしたいという能動的に考えることでまちづくりが進められていく。楽しまなければ長続きしない。

阿部：地元の方たちは、どんどん夢プロジェクトを打ち出していき、どうしたいんだということを言い続けること、行政は絶対にできないと言わないでほしい。

島田：色々な可能性をつなぎ合わせながら、人とのコミュニティを図っていき、地域全体で盛り上げていきたい。

三浦：安全を守る中で、川に親しめるハード整備を行う。地域の方々の意見もいただきながら整備を進めていく。

山本：4年後のオリンピックの時に、水辺や川を中心として、この墨田区がどういうまちになっていくかをみんなて想像していく。水都すみだを再生するという意識でやっていく。



## 5 会場からの質問票及びアンケート

(1) 質問用紙：回収数 75 (回収率34.4%)

(2) アンケート：回収数129 (回収率59.2%)

#### 質問用紙

下記のテーマについて、コーディネーターやパネリストに聞いたことや意見がございましたら、お書きください。

(テーマ)・水辺活用 ・水辺観光 ・地域活性化  
・まちづくり ・北十間川の可能性と将来像

## 6 その他の主な質問とその回答

質問	回答
水辺活性化の広域連携について知りたい。	隅田川沿川での連携や都心・臨海部の舟運活性化に向けた連携を引き続き行い、組織間の連携をさらに強化する。
舟運の賑わいづくりにはどんな事例があるか。	区内ではイベント船（金魚舟、怪談クルーズなど）の運航や船を使った水上演奏会の開催、区外では和船やカヌーなどの手漕ぎ船の運航も行われている。
水辺活用での不安視される側面はあるか。	水辺の新たな賑わい創出は、沿川住民への防犯面やプライバシー面での不安を生み出すことの無いよう、メリット・デメリットをしっかりと見極め、計画を進める必要がある。
建物を水辺に向ける方法はあるか。	親しみやすい河川整備を継続し、沿川住民に水辺で憩ってもらうとともに、河川敷地占有許可準則の特例の導入による新たな河川敷地の使い方についても検討を進める。
旧中川、豎川は、どのように水辺を活用するか。	旧中川河川敷は公園整備が完了しており、豎川も親水テラスを順次整備しているため、沿川住民の生活の中で、憩いの場や散歩道として利用いただけるように、より一層の対応・周知を図っていく。
北十間川樋門の開門化は可能性があるか。	樋門の開門化は、将来的な舟運の需要や効果などを踏まえて引き続き検討する長期的課題である。短期的には、樋門の耐震化（東京都事業）を行い、現在閉鎖されている上部空間の開放を検討していく。
歴史的背景と、水辺の整備をどう位置づけるか。	歴史的背景なども踏まえながら、河川の修景整備を考えていく。
水辺の防災対策はどのように考えているか。	護岸、水門等の耐震化（東京都事業）を進めるとともに、船着場の災害時の活用についても検討を進める。

## 7 アンケートの主な回答

### (1) 基調講演について

- ・協議会活動をいかに続けてやるかがポイントだと思った。
- ・大学、若い世代がコアになっている。・核となる組織の重要性を感じた。

### (2) 意見発表及び意見交換について

- ・舟運関係、教育、水辺を活用したい民間事業者など、墨田区外部の人などの意見も聞いてみたい。
- ・恵まれた水辺をもっと活用して、広域連携の意識も持ちながら回遊ルートを考えてほしい。
- ・住民が普段から水辺に親しんでいることが、人の集う場所となり、賑わいのある空間になっていく。
- ・交通体系（歩行・自転車・電車・バス・車）に舟運も位置づけた全体計画が必要である。

### (3) 水辺活用の魅力・可能性について、北十間川など墨田区の水辺活用に期待することや提案について

- ・イベントや箱モノではなく、生活に密着した水辺空間、活性化を考えてほしい。・地域に対してPR不足。
- ・オープンカフェやかかわてらすなど、まずは実験的でもどんどんやってほしい。水上マーケットも面白い。
- ・まちも商店街も高齢化が進む中で、水辺を活かしたまちづくりは若い人々を呼び込む要因になると思う。
- ・川沿いを緑豊かにして欲しい。可能な限り自然と調和・共生するかたちで整備して頂きたい。
- ・水辺に大学や企業・オフィスビル等を誘致出来ると、もっと人の集う場所になるのではないかと。

### (4) その他、意見・感想等について

- ・もっと若い人たちも交えて考えていく必要がある。・手ごろな価格のクルーズがあると良い。
- ・水辺の動きを墨田全体のまちづくりへ広げることを考えることも必要。・早期から民間活力を図るべき。
- ・川に面した建築物が、河川側からアプローチできるような行政による支援や規制の緩和等が必要ではないかと。
- ・水上交通の一層の充実が必要。ただし舟は天候の影響を受けるため、その問題をどうするかも検討が必要。
- ・首都高で空と水辺が分断されているので、隅田川と空をつなげてほしい。